

日々の関係づくりから始まる地域づくり ～だれでもサロンまざらいんの事例から～



福室市民センター

1. 福室市民センターについて

- ・ 開館 平成15年3月
- ・ 併設施設 児童館、コミュニティ防災センター
- ・ 貸会議室
 - ①会議室(2室)
 - ②和室(2室)
 - ③調理実習室
 - ④ホール
 - ⑤市民活動室
 - ⑥親子室
 - ⑦娯楽室



1. 福室市民センターについて

R8年度取組目標

「笑顔でつながる福のまち ～新たなつながりを創り出すお手伝い～」

【特に重点的に取り組むこと】 ※要点

- ・ 幅広い世代が笑顔で交流できることを目指す。
- ・ 地域の諸団体・市民センター利用団体と各団体の相互のつながりを深める。
- ・ そして、市民センターの仲介・協力により、新たな活動の創出や継続を支援する。



2. 今回の報告内容

「だれでもサロンまざらいん」（平成24年～）

【背景と目的】

- ・ 福室・中野栄地区では核家族化が進み、高齢者と子育て世帯が交流をする機会が少ない。
- ・ また、外国人が徐々に増えているが、地域住民との交流は希薄の様様。
- ・ そこで、世代や国籍を問わず、誰でも気軽に集えるサロンや縁芸場を設けることで、普段関わりのない住民同士の交流を図るとともに、多文化共生の理解が進むような機会を作り、住みよい地域づくりにつなげる。



2. 今回の報告内容

- ・ 6月12日に、本場のネパールカレーを作る講座を開催。
- ・ 募集開始当日に12名の定員に達したため、定員を16名に変更。
- ・ うち10名は、初めて市民センターの講座に申し込んだ方。

本場のネパールカレーを作ろう！



ネパール出身のご夫婦と家庭のカレーを作ってみましょう！ネパールのお話も楽しみです。

チキンとトマトを使ったスパイス控えめの優しい味わいのヘルシーなカレーを作ります。
付け合せのアチャールとラッシーも。

カレーは、イメージです。
どんなカレーが楽しみですね

R8.6.12
(金)
10:00～12:00

会 場: 福島市民センター
調理実習室
定 員: どなたでも 12人(先着)
材料費: カレー、ラッシー、
アチャール
500円程度
持ち物: エフロン・三角巾
申 込: 5/12(火)10:00～
費用を添えて窓口へ

【申込み】(公財) 仙台ひと・まち交流財団 福島市民センター
〒983-0005 仙台市宮城野区福島5丁目9-36
TEL 022-786-3540 FAX 022-388-6320
※いただいた個人情報は講座の運営以外に使用いたしません。

2. 今回の報告内容

ネパールカレーの作り方の説明を受ける様子



料理完成后、ネパール語で「いただきます！」



2. 今回の報告内容

＜アンケート結果（例）＞

- ・ 料理の講座を増やして欲しいです。
- ・ 異国の文化や食事を知りたいです。南アメリカなども興味深いです。
- ・ 人気がありすぐ定員になったにも関わらず、臨機応変に対応いただき本当にありがとうございました。



2. 今回の報告内容

事業実施の効果

- ・ 地域の方々の中で新たな繋がりが生まれるきっかけとなった。
- ・ 参加者が外国文化を身近に感じる機会となった。
- ・ 日常では接点のない人同士の交流が生まれた。



3. そもそも、どうやって開催に至った？

- ・市民センター職員が、児童館に通うネパール出身のお子さんのお母さんに声をかけたのがきっかけ。

「ネパールのカレーって、日本のものと違うんですね？」

「市民センターで、みんなで作ってみませんか？」



3. そもそも、どうやって開催に至った？

- ・もし、こういう声のかけ方をしていたら、開催には至らなかったと感じます。

「市民センターで、多文化共生に取り組んでまして」

「ネパールに関する講座、やってみませんか？」



4. ポイント

- ・ 日々意識してきた以下のことが偶然この繋がりを生みしました。

- ① 「みんなが興味を持って取り組めるものは何だろう？」

- ② 「ヒントは日常のどこにあるか分からない。

普段から、地域の人達と笑顔でいい関係を作ろう！」

- ③ 「地域にいる『思いを持つ人』を繋ぐ存在でいたい！」



4. ポイント

- ・結果的に、次のことに繋がりました。

①多文化共生

②市民センターに来たことが
なかった人との出会い

カレーを食べながら、ネパールの説明を受ける様子



5. 今後

- ・今年度、だれでもサロンまざらいんとしてはあと3回開催予定。

未定 素敵なハンドメイドサロン

未定 気軽に参加できる学びのサロン

1月16日 福室緑芸場（児童館児童の特技披露、演芸）

- ・それ以外にも、新たな利用者の開拓や、様々な世代の交流に繋がる講座を企画していきたい。



6. まとめ

- ① ヒントはどこにあるかわからない。
- ② 地域の課題や、地域の方々の興味をよく見つち、
目の前の人達との関係作りを、日々大切にしていくなが大事。
- ③ これらを意識していくなが、素敵な偶然を生む。

→館にとつても相手にとつてもWIN-WINの関係が大事



＜補足＞

- ・他にも、他国の理解に繋がる取組を重ねてきた。

①馬頭琴コンサート（令和7年5月開催。72名参加）

- ・モンゴルの楽器を通じ、歴史や文化を学んだ。

②バンドネオンとアルバのコンサート（令和8年2月開催。68名参加）

- ・アルゼンチンやチリなど南米の音楽や楽曲の背景を学んだ。

③アメリカ空軍音楽隊金管五重奏コンサート（令和8年3月開催。80名参加）

- ・3.11の追悼コンサートのリハーサルを兼ね開催。
- ・中野中学校吹奏楽部員へのミニクリニックも開催。

